Ⅳ　研究指導概要、研究科規程
及び専攻別教育課程表

ライフデザイン学研究科

研究指導概要

博士前期課程・修士課程

1．各セメスタの指導内容

1セメスタ

・論文題目に合わせ、基礎科目、専門科目の履修指導を受ける。

・研究計画を立案し、調査、実験等の研究方法論を修得する。

2セメスタ

・自らの問題意識に基づいて研究関連分野の最近の研究活動の状況等のレビュー作成の指導を受ける。

・到達目標を踏まえた達成状況に応じて、研究計画の確認や見直しを行う。

・研究テーマに関連した研究課題や研究方法についてプレゼンテーションと討論を経験させ、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を養う。

3セメスタ

・確定した研究テーマに基づいて調査、文献研究、実験を行い、研究方法の妥当性を検証しつつ、研究成果のとりまとめを行う。

・国内外の学会発表や論文投稿等へ積極的に取り組めるよう指導を受ける。

4セメスタ

・修士論文の骨子について検討する。

・研究精度を高め、修士学位論文にまとめる。

2．論文報告会（論文発表会）等の概要と発表の要件等

博士前期課程および修士課程２年生で、修士論文を提出する予定の者は、各専攻またはコースで定められた中間報告会および最終試験・修士論文発表会等で論文要旨をまとめて報告しなければならない。中間報告会および修士論文発表会等の開催時期や、報告の形式および配付資料の準備等、報告会の詳細は入学時ガイダンスまたは授業期間中に周知される。

博士前期課程および修士課程在籍者は、学年等の如何を問わず報告を聞くことが可能なので、積極的に参加することが望ましい。

3．特定課題研究論文等

生活支援学専攻、健康スポーツ学専攻および人間環境デザイン専攻では、修士論文の提出にかえて、特定課題研究論文または特定課題研究（修士設計）の提出を認めている。特定課題研究論文とは、特定の課題について実践的に調査・研究した論文をいい、特定課題研究（修士設計）とは、特定の課題について調査・研究した成果物としての設計図書・模型をいう。特定課題研究論文または特定課題研究（修士設計）の提出を希望するものは、以下の要件に沿って提出すること。各専攻の要件の詳細は入学ガイダンス時に説明される。

・特定課題研究論文

1．原則論文を提出するセメスタ終了時に本大学院在学期間２年以上を満たし（短期修了制度に該当する場合を除く）、30単位以上を修得、または修得見込みであること。

2．特定課題研究論文は、12,000字以上のものを３本提出すること。

3．特定課題研究論文の提出は、原則として入学時に選択すること。

・特定課題研究（修士設計）

〔人間環境デザイン専攻〕

1．特定課題研究（修士設計）を提出するセメスタ終了時に本大学院在学期間2年以上を満たし（短期修了制度に該当する場合を除く）、30単位以上を修得、または修得見込みであり、かつ必要な研究指導を受けたこと。

2．各専攻またはコースで定められた中間報告会で特定課題研究（修士設計）要旨をまとめて報告したこと。

3．特定課題研究（修士設計）の提出は、原則として入学時に選択すること。

4．特定課題研究（修士設計）の図書様式は、下記のとおりとする。

①提出は A4または A3サイズとする。

②内容
・調査報告あるいは設計趣意書（約40,000字～ 60,000字程度）
・図面もしくはそれに相当する表現：10枚～ 15枚程度（課題内容に合わせて書式は指示する）
③模型等の提出は認めるが、修士設計図書一式で表現が完結していること。

博士後期課程

1．各セメスタの指導内容

1セメスタ
・論文題目に合わせ、基礎科目、専門科目の履修指導を受ける。
・研究計画を立案し、調査、実験等の研究方法論を修得する。
2セメスタ
・自らの問題意識に基づいて研究関連分野の最近の研究活動の状況等のレビュー作成の指導を受ける。
・到達目標を踏まえた達成状況に応じて、研究計画の確認や見直しを行う。
・研究テーマに関連した研究課題や研究方法についてプレゼンテーションと討論を経験し、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を養う。
3セメスタ
・確定した研究テーマに基づいて調査、文献研究、実験を行い、研究方法の妥当性を検証する。
・国内外の学会発表や論文投稿等へ積極的に取り組めるよう指導を受ける。
4セメスタ
・収集した研究データ（量的、質的、文献資料）の分析を行い、研究結果を整理する。
5セメスタ
・研究結果について、多角的な考察を展開し、博士論文の骨子について検討する。
・研究精度を高め、博士学位論文にまとめる。
6セメスタ
・論文についての精査を行って、推敲を繰り返した上で提出する。
・口述試験への準備を開始する。

2．論文報告会（論文発表会）等の概要と発表の要件等

中間報告会での報告が博士論文の提出要件となっているため、在学者は全員、必ず現在の状況に即して各専攻で定められた中間報告会で報告する。中間報告会の開催時期や、報告の形式および配付資料の準備等、報告会に関わる詳細は入学時ガイダンスまたは授業期間中に周知される。

審査終了時までに博士学位論文提出者による公聴会が開催される。

東洋大学大学院ライフデザイン学研究科規程

平成30年規程第24号
平成30年4月1日
施行

改正　　令和2年4月1日
改正　　令和3年4月1日

（趣旨）

第１条　この規程は、東洋大学大学院学則（昭和29年４月１日施行。以下「学則」という。）第４条第５項に基づき、東洋大学大学院ライフデザイン学研究科（以下「ライフデザイン学研究科」という。）の教育研究に関し必要な事項を定める。

（人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的）

第２条　ライフデザイン学研究科は、学則第４条の２に基づき、研究科及び各専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を別表第１のとおり定める。

（修了の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針）

第３条　ライフデザイン学研究科は、学則第４条の３に基づき、各専攻の修了の認定及び学位授与に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針を別表第２のとおり定める。

（教育課程）

第４条　ライフデザイン学研究科は、学則第５条の２及び第７条に基づき、各専攻の教育課程における科目区分、授業科目及び研究指導科目の名称、単位数、配当学年、履修方法等を別表第３のとおり定める。

（修了に必要な単位等）

第５条　ライフデザイン学研究科は、学則第12条及び第13条に基づき、各専攻の修了に必要な単位等を別表第４のとおり定める。

（改正）

第６条　この規程の改正は、学長がライフデザイン学研究科委員会の意見を聴き、研究科長会議の審議を経て行う。

附　　則

この規程は、平成30年４月１日から施行する。

附　　則

１　この規程は、2020年４月１日から施行する。
２　前項の規定にかかわらず、2019年４月１日以前の入学生については、改正後の別表第３を除き、なお従前の例による。

附　　則

１　この規程は、2021年４月１日から施行する。
２　前項の規定にかかわらず、2020年４月１日以前の入学生については、改正後の第３条別表第２を除き、なお従前の例による。

別表第１　人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（第２条関係）

ライフデザイン学研究科

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
【博士前期・修士課程】 (1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 今日の複雑化、多様化した現代社会において、人々の生活に深い関わりを持つ福祉や保育、スポーツを介した健康増進の分野における高度専門職業人ならびにそれらの分野の国際社会で貢献できる人材および企業や自治体、国際機関などで活躍できるデザイナー、コンサルタント、教育研究者を養成する。 (2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 当研究科の教育研究の特徴は、多様化する社会の要請に応じて、福祉学、保育学、健康スポーツ学、人間環境デザイン学を含め、多くの関連学問の学際的なアプローチによって、現代における複合的な社会問題の解決を図ろうとするところにある。その基本方針のもとで、高度専門職業人養成を主たる目的とする当課程では、望ましい心身の状況や生活環境が持続可能な社会作りに寄与すべく、高度な専門知識・技能・研究手法に基づく課題発見能力、問題解決のためのマネジメント能力および他職種と連携・協働する能力といった、高度な実践能力を身につけさせることを目的とする。 【博士後期課程】 (1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 今日の複雑化、多様化した現代社会では、福祉、保育、健康スポーツ、人間環境デザインの分野において発生している社会問題もさまざまな要素が入り組み、複雑化･複合化している。これらの諸問題に対し、当研究科では、単一の学問領域の視点からではなく学際的な視点によって解決を図り、国際的にも活躍できる自立した研究者や教育者、高度専門職業人を養成する。 (2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 当研究科の教育研究の特徴は、多様化する社会の要請に応じて、福祉学、保育学、健康スポーツ学、人間環境デザイン学を含め、多くの関連学問の学際的なアプローチによって、現代における複合的な社会問題の解決を図ろうとするところにある。今日の福祉、保育、健康スポーツ、人間環境デザインの分野における諸問題に対しては、対症療法的なものではなく、根深い原因を明確にした上で、適格な解決の糸口を導き出すことが必要とされる。そのため、当課程では、望ましい心身の状況や生活環境が持続可能な社会作りに寄与すべく、多様化した問題を学問的・学際的な背景をもとに的確に分析し、問題解決のための新たな概念モデルや方法論、デザインを構築・提案できる能力を習得させることを目的とする。

ライフデザイン学研究科生活支援学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
【修士課程】 (1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 保育、教育、福祉、医療、介護などの各専門領域において指導的立場を担い、現代社会のさまざまな生活上の諸問題に対応できる専門従事者および研究者を養成する。 (2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 専攻内に高齢者･障害者支援学、子ども支援学の２コースを設置し、各専門領域に関する学問研究を基盤として、学際的・実践的な教育研究能力を習得させることを目的とする。

ライフデザイン学研究科健康スポーツ学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
【修士課程】 (1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか ①健康スポーツ学の立場から、健康寿命の延伸対策や生活習慣病対策、さらには今日広がっている健康格差の是正に貢献できる専門的職業人やそれを支える研究者を養成する。 ②グローバル社会の到来を踏まえ、国際的に活躍できる高度な専門的能力や知識を有する健康指導の専門的職業人、およびそれを支える研究者を養成する。 ③保健体育科の教職教育の一層の発展を目指し、高度な実践的指導力や専門的力量を備えた保健体育科教員ならびに養護教諭、およびその研究者を養成する。 (2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 健康スポーツ学の学問体系は複合領域である。健康スポーツ学における各専門領域（自然科学領域、社会科学領域および人文科学領域）の学問研究とともに、各専門領域を複合的・横断的に研究させることによって、健康スポーツ学における Specialist でありながら Generalist である能力を習得させることを目的とする。

ライフデザイン学研究科ヒューマンライフ学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
【博士後期課程】 (1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 福祉、医療、ケア、保育、健康スポーツといった各分野において国際的にも活躍することが期待できる独立した研究者、教育者、および福祉施設や企業、官公庁において指導的能力を有する職業人を養成する。 (2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 福祉、医療、ケア、保育、健康スポーツといった各分野における問題解決能力、マネジメント能力およびプレゼンテーション力を習得させることを目的とする。

ライフデザイン学研究科人間環境デザイン専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
【博士前期課程】 (1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 「人間環境デザイン学」を修得し、専門的職業人として十分な実践能力を有する者を養成する。具体的には、企業や自治体、国際機関などの組織において、デザインやコンサルティングを行う即戦力となる実務者などを養成する。 (2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 デザイン分野における、問題解決能力、表現能力、マネジメント能力を習得させることを目的とする。 【博士後期課程】 (1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 「人間環境デザイン学」を修得し、高度な専門的職業人として高い水準の製品や空間を創出する能力、若しくは研究能力を有する者を養成する。具体的には、企業や自治体、国際機関などの組織において、デザインやコンサルティングを主体的に実施する実務者、大学等教育研究機関の教育者、研究者などを養成する。 (2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 研究やコンサルティングを主体的に行うための問題解決能力、表現能力、マネジメント能力を習得させることを目的とする。

別表第２　修了の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針（第３条関係）

ライフデザイン学研究科生活支援学専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）
【修士課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。 （1）福祉、保育などの各専門領域における高度な専門知識を有している。 （2）質問紙調査や事例研究法などの種々の研究手法を学び、統計データの解析など、基礎的な社会調査の手法を修得している。 （3）福祉、保育などの各専門領域において、国際的視野を兼ね備え、かつ、学際的な視点から各専門領域の発展に寄与しうる資質を身につけている。 （4）各専門領域の高度専門職業人として、実践現場において多角的に事例分析を行い、社会調査の手法を活かし科学的に実証データを検証することによって、福祉、保育現場の諸問題に対して具体的な改善策等を提案し、社会に貢献することができる能力を有している。
2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）
【修士課程】 （1）教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。 ①福祉、保育などの各専門領域に関する基礎学問に加え、近年の社会問題に対応した科目内容を幅広く教授する。 ②研究者としての基礎的素養を養うために、幅広い知識を教授する科目、基礎的データの分析技法を教授するための科目を配置する。 ③少子高齢社会の今日的な課題に応えるために、子どもや高齢者のケアワークに関する科目、多様な実践主体が担う地域づくりを考える科目を開講する。 ④グローバル社会にあって、国際社会で活躍する能力を養うために、海外研修科目を配置する。 （2）成績の評価 成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。
3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）
【修士課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。 （1）子どもや高齢者、障害者を取り巻く諸問題に対して、その状況等を総合的に把握し、専門的観点から問題解決の方法等を見いだす知識のある者 （2）社会人として、保育、教育、福祉、医療、介護等の現場に勤務しており、関連領域に関する知識や技術を探求し、職場への還元と自身のキャリアアップを目指す能力のある者 （3）学部で習得した知識を活かし、対人支援や相談援助に関するより高度な専門的知見や技術を習得したいという意欲のある者 （4）保育、教育、福祉、医療、介護の各分野において、国際社会で活躍する意欲があり、それに係る研究に積極的に携わろうとする者

ライフデザイン学研究科健康スポーツ学専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）
【修士課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。 （1）健康スポーツに関する高度な専門的知識および技能、調査手法を修得している。 （2）健康スポーツ領域の各専門分野において国際的に活躍するべく、国内外の地域における身体・健康文化を理解・尊重した上で、専門性を発揮できる資質を身につけている。 （3）データ解析など科学的な検証手法を用いながら、健康スポーツ関連機関、健康スポーツ産業、地方自治体、国際機関等で、高度専門職業人として健康づくりのためのプログラムを立案・実施できる能力を有している。
2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）
【修士課程】 （1）教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。 ①健康スポーツに関する専門的知識や技能を修得するため応用健康科学、スポーツ科学、身体教育学についての高度な専門科目を配置する。 ②健康スポーツに関する専門的知識や技能を統合し、高い専門性を駆使して問題解決能力を習得するための科目を配置する。 ③国際社会で健康スポーツの分野で活躍する能力を養うため、海外研修科目を配置する。また、国際学会での研究発表、海外の専門誌にアクセプトされるための英文論文作成法を科目として配置する。 ④修士論文作成に向けた調査・研究手法に関する科目を開講する。 （2）成績の評価 成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。
3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）
【修士課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。 （1）健康スポーツに関する基本的な知識（人文科学・社会科学・自然科学）のある者 （2）人々の生活の質（QOL）の創造に貢献し、それに関わる課題を積極的に解決しようとする能力のある者 （3）国際社会において健康スポーツに関わる指導者として活躍する意欲があり、それに関わる研究に積極的に携わろうとする者

ライフデザイン学研究科ヒューマンライフ学専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）
【博士後期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。 （1）福祉、保育、健康スポーツの各専門領域が抱える諸問題について、高度な理論的背景に基づき、構造を多角的に分析し、科学的手法により評価する能力を有している。 （2）「Quality of Life（生活の質）の維持・増進」の統一的観点のもと、各専門領域の自立した研究者として、問題解決に向けた新たな理論の構築や、さらに実践現場における技術開発を行うことで、社会に貢献できる能力を有している。
2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）
【博士後期課程】 （1）教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。 ①授業科目については、修士課程の生活支援学専攻、健康スポーツ学専攻における学修を基礎とし、Quality of Life（生活の質）の維持・増進という統一的な観点から福祉、保育、健康スポーツの各専門領域に関する高度な学識を教授する。 ②研究指導科目については、研究計画の批判的検討、および定量的・定性的調査の特性を理解させた上での適切な調査実施を重視し、院生自身が研究テーマの学術上の意義を認識しながら、論理的根拠のもとに自立して研究を行えるよう、指導を行う。 （2）成績の評価 成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。
3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）
【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。 （1）QOL の維持・増進という社会的課題と関連する福祉、保育、健康スポーツの諸問題に精通した知識のある者 （2）少子高齢化が進む社会において QOL の維持・増進は年齢、性別、生活機能の区別なく重要な課題と考える事ができる者 （3）それぞれの分野における新たな理論を構築したり、実践技術の開発を目指す、能力および意欲を有し、現代人の豊かなライフ（Life：生命、生活、人生）の積極的創造に寄与し、国際的にも活躍したいという意欲のある者

ライフデザイン学研究科人間環境デザイン専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

（1）専門的職業人として、建築、プロダクト系のデザイン事務所、企業のデザイン部門、ゼネコンの設計部門、公設研究所内の福祉機器開発・デザイン部門、医療機関、行政各機関などの社会的活動における、デザインを行う能力、すなわち「人間環境デザイン学」の十分な実践能力を有している。

（2）デザイン分野において、問題点を発見し、課題を整理し、解決案を考察し、実現する、といった一連の問題解決能力、マネジメント能力を有している。

（3）グローバルに、ローカルに、異文化を理解し、国際社会や地域社会に貢献するための、デザイン能力を有している。

【博士後期課程】

以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。

（1）研究者として、独立した研究、指導を行うための、分析や検証、考察を行う能力を有している。

（2）高度な専門的職業人として、高い水準の製品や空間を創出するデザインやコンサルティングを行う能力を有している。

（3）デザイン分野における、博士前期課程よりも更に複雑な問題の解決能力、マネジメント能力を有している。

（4）グローバルに、ローカルに、異文化を理解し、国際社会や地域社会に貢献する実務や研究活動を遂行するための、デザインやコンサルティングを行う能力を有している。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

（1）教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。

①ユニバーサルデザインを教育・研究のキーコンセプトとし、分野横断的なカリキュラムを提供することで、幅広い専門知識の学修を目指す。

②建築士の実務経験要件を満たすことができるカリキュラムを提供する。

③特別演習などの実践的な科目や研究指導科目において、自ら問題を発見し解決する能力、マネジメントする能力を養う。

④特別実習科目において、国際的な分野での交流や活動を積極的に進める資質を養う。

（2）成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。

②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。

③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

【博士後期課程】

（1）教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。

①人間環境デザイン学の専門性を深め、新たな取り組みに挑戦するための基盤を形成するカリキュラムを実施する。

②特殊研究科目においては、一連の研究活動、研究成果の国内外への発信および高い倫理観を持って研究を進めるための助言や指導を行い、研究や業務のプロジェクトを中心的に遂行することができる資質を養う。

③研究指導科目において、特殊研究科目における研究活動の成果を受けて、論文作成技術やプレゼンテーションについて指導し、研究成果を博士論文としてまとめられるよう指導を行う。

（2）成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。

②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。

③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）
【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。 (1)「人間環境デザイン学」の学問的な目的や価値に共感し、関連する学士相当の知識や技能のある者 (2) デザイン分野における専門性と総合性を高める実践的な学修に意欲のある者 (3) 研究倫理を遵守し、国際的かつ学際的な学修に対して意欲のある者 【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。 (1)「人間環境デザイン学」の学問的な目的や価値に共感し、関連する修士相当の知識や技能を有する者 (2)「人間環境デザイン分野」の深化や新たな取り組みに意欲のある者 (3) 研究倫理を遵守し、国際的かつ学際的に高度な専門的職業人、研究者を志向する者

別表第３　教育課程（第４条関係）

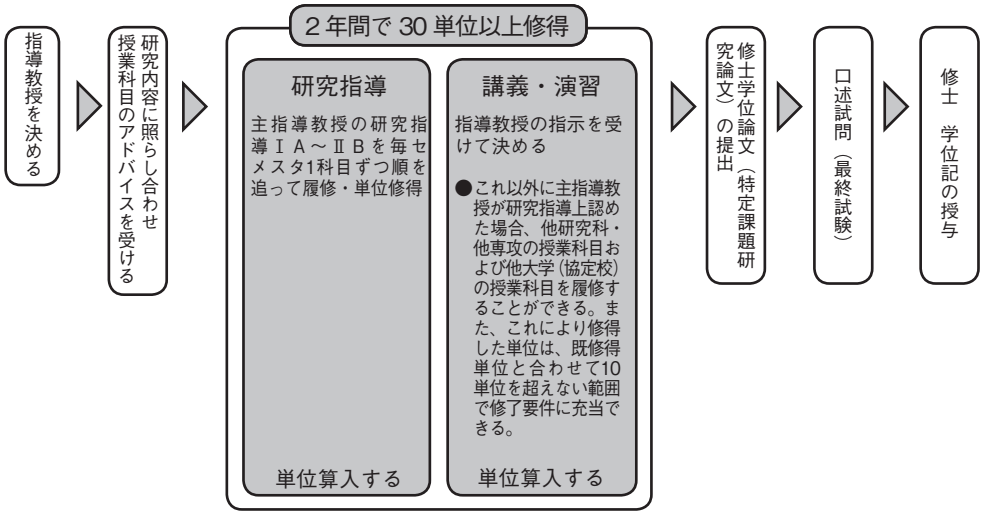
省略する。

別表第４　修了に必要な単位等（第５条関係）

省略する。

生活支援学専攻

修士課程　履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。
※本専攻所属学生は、2021年４月より赤羽台キャンパス（WELLB HUB-2）で修学します。

生活支援学専攻

修士課程

コース	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	担当教員	備考
共通	春	（必修）ライフデザイン学基礎特論Ⅰ	ライフデザイン学研究入門	講義	2	SWS601	1	嶋崎、的場、木内（以上代表者）	**両コースの必修科目（健康スポーツ学専攻との合同開講）**
	秋	ライフデザイン学基礎特論Ⅱ	生活支援学基礎研究	講義	2	SWS602	1・2	是枝　喜代治	
	春	ライフデザイン学実践研究A		演習	2	CIV601	1・2	是枝、稲沢、吉浦、吉田、渡辺、嶋崎、中道、山本、八木、的場	
	秋	ライフデザイン学実践研究B		演習	2	CIV602	1・2	是枝、稲沢、吉浦、吉田、渡辺、嶋崎、中道、山本、八木、的場	
	春・秋	海外社会調査演習Ⅰ		演習	2	ARS601	1・2	木内　明、八木裕子	集中講義
	春・秋	海外社会調査演習Ⅱ		演習	2	ARS602	1・2	木内　明、八木裕子	集中講義
高齢者・障害者支援学コース	春	高齢者・障害者支援学特論ⅠA	対人支援原理論	講義	2	SWS603	1・2	稲沢公一	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅠB	対人支援原理論	講義	2	SWS604	1・2	稲沢公一	
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅡA	障がい児・者支援論	講義	2	SWS605	1・2	是枝喜代治	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅡB	障がい児・者支援論	講義	2	SWS606	1・2	是枝喜代治	
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅢA	精神保健論	講義	2	SWS607	1・2	吉田光爾	隔年開講（2022年度休講）
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅢB	精神保健論	講義	2	SWS608	1・2	吉田光爾	隔年開講（2022年度休講）
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅣA	介護福祉論	講義	2	SWS609	1・2	渡辺裕美	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅣB	介護福祉論	講義	2	SWS610	1・2	渡辺裕美	
	—	高齢者・障害者支援学特論ⅤA	データ収集と分析基礎	講義	2	SWS611	1・2		本年度休講（隔年開講）
	—	高齢者・障害者支援学特論ⅤB	データ収集と分析基礎	講義	2	SWS612	1・2		本年度休講（隔年開講）
	—	高齢者・障害者支援学特論Ⅵ		講義	2	SWS613	1・2		本年度休講
	—	高齢者・障害者支援学特論Ⅶ		講義	2	SOC601	1・2		本年度休講
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅧA	高齢者ケアワーク論	講義	2	SWS614	1・2	八木裕子	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅧB	高齢者ケアワーク論	講義	2	SWS615	1・2	八木裕子	
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅨA	保健医療福祉調査論	講義	2	SWS616	1・2	的場智子	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅨB	保健医療福祉調査論	講義	2	SWS617	1・2	的場智子	
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅩA	医療福祉論	講義	2	SWS618	1・2	吉浦輪	隔年開講（2022年度休講）
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅩB	医療福祉論	講義	2	SWS619	1・2	吉浦輪	隔年開講（2022年度休講）
	—	高齢者・障害者支援学特論ⅪA	多職種連携協働論	講義	2	SWS620	1・2		本年度休講（隔年開講）
	—	高齢者・障害者支援学特論ⅪB	多職種連携協働論	講義	2	SWS621	1・2		本年度休講（隔年開講）
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅫA	地域福祉論	講義	2	SWS622	1・2	山本美香	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅫB	地域福祉論	講義	2	SWS623	1・2	山本美香	
子ども支援学コース	春	子ども支援学特論ⅠA	子ども心理発達支援論	講義	2	CHS601	1・2	中道直子	
	秋	子ども支援学特論ⅠB	子ども心理発達支援論	講義	2	CHS602	1・2	中道直子	
	—	子ども支援学特論ⅡA	子どもの心を育てる児童文学	講義	2	CHS603	1・2		本年度休講
	—	子ども支援学特論ⅡB	子どもの心を育てる児童文学	講義	2	CHS604	1・2		本年度休講
	春	子ども支援学特論ⅢA	健康保育論	講義	2	CHS605	1・2	嶋崎博嗣	
	秋	子ども支援学特論ⅢB	健康保育論	講義	2	CHS606	1・2	嶋崎博嗣	
	春	子ども支援学特論ⅣA	子ども家庭福祉論	講義	2	CHS607	1・2	鈴木崇之	
	秋	子ども支援学特論ⅣB	子ども家庭福祉論	講義	2	CHS608	1・2	鈴木崇之	
	春	子ども支援学特論ⅤA	保育学	講義	2	CHS609	1・2	高山静子	
	秋	子ども支援学特論ⅤB	保育学	講義	2	CHS610	1・2	高山静子	

コース	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	担当教員	備考
子ども支援学コース	春	子ども支援学特論ⅥA	多文化共生保育論	講義	2	CHS611	1・2	内田千春	
	秋	子ども支援学特論ⅥB	多文化共生保育論	講義	2	CHS612	1・2	内田千春	
	春	子ども支援学特論ⅦA	幼児教育論	講義	2	CHS613	1・2	高橋健介	
	秋	子ども支援学特論ⅦB	幼児教育論	講義	2	CHS614	1・2	高橋健介	
	春	子ども支援学特論ⅧA	子どもの権利論	講義	2	CHS615	1・2	内田塔子	
	秋	子ども支援学特論ⅧB	子どもの権利論	講義	2	CHS616	1・2	内田塔子	
	—	子ども支援学特論ⅨA		講義	2	CHS617	1・2		本年度休講
	—	子ども支援学特論ⅨB		講義	2	CHS618	1・2		本年度休講
	春	子ども支援学特論ⅩA	子どもソーシャルワーク論	講義	2	CHS619	1・2	南野奈津子	
	秋	子ども支援学特論ⅩB	子どもソーシャルワーク論	講義	2	CHS620	1・2	南野奈津子	
	春	子ども支援学特論ⅪA	保護者支援論	講義	2	CHS621	1・2	小川晶	
	秋	子ども支援学特論ⅪB	保護者支援論	講義	2	CHS622	1・2	小川晶	
	春	子ども支援学特論Ⅻ	国際比較子ども支援計画論	講義	2	CHS623	1・2	小野道子	集中講義

研究指導

コース	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	担当教員	備考
高齢者・障害者支援学コース	春・秋	高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA		演習	2	REG601	1	是枝、稲沢、吉浦、吉田、渡辺、山本、八木、的場	1セメスタ在籍者
	春・秋	高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB		演習	2	REG602	1		2セメスタ在籍者
	春・秋	高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA		演習	2	REG603	2		3セメスタ在籍者
	春・秋	高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB		演習	2	REG604	2		4セメスタ在籍者
子ども支援学コース	春・秋	子ども支援学研究指導ⅠA		演習	2	REG605	1	中道、内田(千)、嶋崎、鈴木、南野、高山(静)、高橋(健)、内田(塔)	1セメスタ在籍者
	春・秋	子ども支援学研究指導ⅠB		演習	2	REG606	1		2セメスタ在籍者
	春・秋	子ども支援学研究指導ⅡA		演習	2	REG607	2		3セメスタ在籍者
	春・秋	子ども支援学研究指導ⅡB		演習	2	REG608	2		4セメスタ在籍者

注:春・秋は、春または秋の意で、在籍セメスタの学期を指す。

修了に必要な単位等

1．修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
2．主指導教授の「研究指導ⅠA～ⅡB」を、毎セメスタ１科目ずつ順を追って履修・単位修得すること。
3．共通科目「ライフデザイン学基礎特論Ⅰ」を履修・単位修得すること。

履修方法

1．履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2．指導教授は、主指導教授１名、副指導教授１名（特に主指導教授から指示があった場合は、２名）とし、主指導教授は、「研究指導ⅠＡ～ⅡB」を担当する教員の中から選ぶこと。
3．同一科目を２回以上履修・単位修得することはできない。主指導教授の科目であっても１回のみ履修・単位修得できるものとする。ただし、原級生および長期履修学生は、延長したセメスタ（５セメスタ以上）において、主指導教授の「研究指導ⅡB」をその都度履修すること。なお、この場合であっても、同科目において修了要件に充当するのは２単位のみとする。
4．本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第８条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は１回目のみ修了要件として扱い、２回目以降の履修によって修得した成績および単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の２に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。
5．本専攻においては、特定の課題についての研究成果報告書の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。この「特定課題研究論文」の選択は、原則として入学時にのみ可能である。これを選択する場合は、予め窓口に申し出ること。
　※「特定課題研究論文」について
　　研究分野によっては、計画をもって「特定課題研究論文」とすることができる。
　　予め指導教授と相談のうえ窓口に申し出ること。

6．ライフデザイン学実践研究Ａ・Ｂについて

・本科目は、院生が各自の専門分野で社会実践（調査・実習・インターンシップを含む）を行うと同時に、学内で各担当教員による学術的指導を受けることによって、実践現場と連携した研究成果の創出を目指すものである。社会実践の成果は、その合計時間が45時間を超えた場合、実践先からの証明を得たうえで提出できるレポートによって評価する。成績評価にあたっては、このレポートが一定の水準を満たしたとき、学内での指導時間とレポート作成時間を含め全体で90時間程度であることを前提に、院生の主指導教授は２単位の演習科目を履修したものと認定し、成績を評価する。

・実践研究Ａは春学期、実践研究Ｂは秋学期に配置し、在学期間中に各１回履修・単位修得することができる。

・本科目は、ToyoNet-Gによる履修登録はできないので、主指導教授と相談の上、実践予定学期の履修登録期間中に、赤羽台事務課窓口（WELLB HUB-2　１階）で配布する「ライフデザイン学実践研究履修届出用紙」に記入して提出すること。

7．海外社会調査演習Ⅰ・Ⅱについて

・本科目は、健康スポーツ学専攻と合同開講する。諸外国に実際に赴き、当該社会における健康・スポーツへの取組や生活支援の現場について、フィールドワークや調査、実習等を行う。フィールドワーク等の成果は、院生各自の課題設定に沿ってレポートにまとめ、報告する。成績評価にあたっては、このレポートが一定の水準を満たしたとき、事前事後学習と報告書作成時間を含め全体で90時間程度であることを前提に、担当教員は２単位の演習科目を履修したものと認定し、成績を評価する。

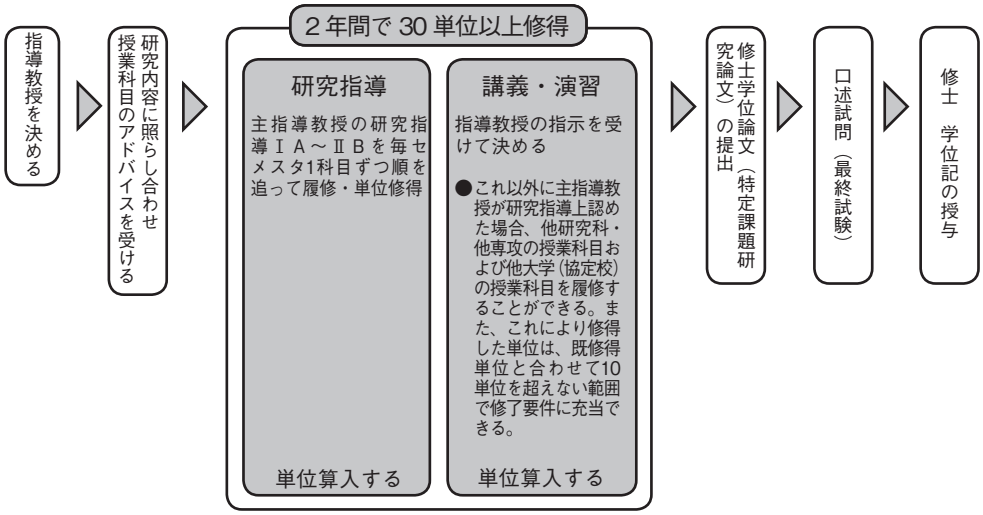
・本科目は、原則、休暇中に現地にて実践した成果を次学期に評価し単位認定するものとし、在学期間中、ⅠとⅡそれぞれ１回ずつ履修・単位修得することができる。

・ⅠとⅡはそれぞれ個別に履修することが可能であるが、教育効果上、ⅠとⅡを順に履修することを推奨する。ただし、２科目を同時に履修することはできない。

・本科目は、ToyoNet-Gによる履修登録はできないので、主指導教授と相談の上、各学期の履修登録期間中に、赤羽台事務課窓口（WELLB HUB-2　１階）で配布する「海外社会調査演習履修届出用紙」に記入して提出すること。

健康スポーツ学専攻

修士課程　履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。
※本専攻所属学生は、2021年４月より赤羽台キャンパス（WELLB HUB-2）で修学します。

健康スポーツ学専攻

修士課程

区分	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	担当教員	備考
共通科目	春	ライフデザイン学基礎特論	ライフデザイン学研究入門	講義	2	SWS601	1	木内、嶋崎（以上代表者）	生活支援学専攻との合同開講
	春・秋	海外社会調査演習Ⅰ		演習	2	ARS601	1・2	木内　明、八木裕子	集中講義
	春・秋	海外社会調査演習Ⅱ		演習	2	ARS602	1・2	木内　明、八木裕子	集中講義
講義科目	春	健康スポーツ学特論ⅠA	ヘルスプロモーション論	講義	2	AHS601	1・2	齊藤恭平	隔年開講(2022年度休講)
	秋	健康スポーツ学特論ⅠB	ヘルスプロモーション論	講義	2	AHS602	1・2	齊藤恭平	隔年開講(2022年度休講)
	春	健康スポーツ学特論ⅡA	健康増進論	講義	2	AHS603	1・2	神野宏司	隔年開講(2022年度休講)
	秋	健康スポーツ学特論ⅡB	健康増進論	講義	2	AHS604	1・2	神野宏司	隔年開講(2022年度休講)
	春	健康スポーツ学特論ⅢA	解剖・組織学：基礎	講義	2	GEA601	1・2	大迫正文	隔年開講(2022年度休講)
	秋	健康スポーツ学特論ⅢB	解剖・組織学：応用	講義	2	GEA602	1・2	大迫正文	隔年開講(2022年度休講)
	—	健康スポーツ学特論ⅣA	運動生理学：基礎	講義	2	ENP601	1・2		本年度休講
	—	健康スポーツ学特論ⅣB	運動生理学：応用	講義	2	ENP602	1・2		本年度休講
	春	健康スポーツ学特論ⅤA	運動制御論	講義	2	GPH601	1・2	古川覚	隔年開講(2022年度休講)
	秋	健康スポーツ学特論ⅤB	運動制御論	講義	2	GPH602	1・2	古川覚	隔年開講(2022年度休講)
	春	健康スポーツ学特論ⅥA	コンディショニング論	講義	2	AHS605	1・2	岩本紗由美	隔年開講(2022年度休講)
	秋	健康スポーツ学特論ⅥB	コンディショニング論	講義	2	AHS606	1・2	岩本紗由美	隔年開講(2022年度休講)
	—	健康スポーツ学特論ⅦA	アダプティッドスポーツ指導論	講義	2	SPS601	1・2		本年度休講(隔年開講)
	—	健康スポーツ学特論ⅦB	アダプティッドスポーツ指導論	講義	2	SPS602	1・2		本年度休講(隔年開講)
	春	健康スポーツ学特論ⅧA	グループ運動指導論	講義	2	DMB601	1・2	鈴木智子	
	秋	健康スポーツ学特論ⅧB	グループ運動指導論	講義	2	DMB602	1・2	鈴木智子	
	春	健康スポーツ学特論ⅨA	体育科教育学	講義	2	ESS601	1・2	平野智之	
	秋	健康スポーツ学特論ⅨB	体育科教育学	講義	2	ESS602	1・2	平野智之	
	春	健康スポーツ学特論ⅩA	学校保健論	講義	2	EDU601	1・2	内山有子	
	秋	健康スポーツ学特論ⅩB	学校保健論	講義	2	EDU602	1・2	内山有子	
	春	健康スポーツ学特論ⅪA	健康スポーツ民族論	講義	2	SPS603	1・2	木内明	
	秋	健康スポーツ学特論ⅪB	健康スポーツ民族論	講義	2	SPS604	1・2	木内明	
	春	健康スポーツ学特論ⅫA	情報社会論	講義	2	LIH601	1・2	淺間正通	
	秋	健康スポーツ学特論ⅫB	情報社会論	講義	2	LIH602	1・2	淺間正通	
	—	健康スポーツ学特論ⅩⅢA	統計学：基礎	講義	2	STS601	1・2		本年度休講
	—	健康スポーツ学特論ⅩⅢB	統計学：応用	講義	2	STS602	1・2		本年度休講
	—	健康スポーツ学特論ⅩⅣA	調査・研究法：基礎	講義	2	STS603	1・2		本年度休講
	—	健康スポーツ学特論ⅩⅣB	調査・研究法：応用	講義	2	STS604	1・2		本年度休講
	春	健康スポーツ学特論ⅩⅤA	地域マネジメント論	講義	2	MAN601	1・2	大木裕子	
	秋	健康スポーツ学特論ⅩⅤB	地域マネジメント論	講義	2	MAN602	1・2	大木裕子	
	春	健康スポーツ学特論ⅩⅥA	レクリエーショナルスポーツ論	講義	2	AHS611	1・2	細谷洋子	
	秋	健康スポーツ学特論ⅩⅥB	レクリエーショナルスポーツ論	講義	2	AHS612	1・2	細谷洋子	
演習科目	—	健康スポーツ学演習ⅠA	ヘルスプロモーション論演習	演習	2	AHS601	1・2		本年度休講(隔年開講)
	—	健康スポーツ学演習ⅠB	ヘルスプロモーション論演習	演習	2	AHS602	1・2		本年度休講(隔年開講)
	—	健康スポーツ学演習ⅡA	健康増進論演習	演習	2	AHS603	1・2		本年度休講(隔年開講)
	—	健康スポーツ学演習ⅡB	健康増進論演習	演習	2	AHS604	1・2		本年度休講(隔年開講)
	—	健康スポーツ学演習ⅢA	解剖・組織学演習：発展	演習	2	GEA601	1・2		本年度休講(隔年開講)
	—	健康スポーツ学演習ⅢB	解剖・組織学演習：発展	演習	2	GEA602	1・2		本年度休講(隔年開講)
	—	健康スポーツ学演習ⅣA	運動生理学演習：基礎	演習	2	ENP601	1・2		本年度休講(隔年開講)

区分	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	担当教員	備　考
演習科目	—	健康スポーツ学演習ⅣB	運動生理学演習：応用	演　習	2	ENP602	1・2		本年度休講(隔年開講)
	—	健康スポーツ学演習ⅤA	運動制御論演習	演　習	2	GPH601	1・2		本年度休講(隔年開講)
	—	健康スポーツ学演習ⅤB	運動制御論演習	演　習	2	GPH602	1・2		本年度休講(隔年開講)
	春	健康スポーツ学演習ⅥA	人体構造論演習：基礎	演　習	2	GEA603	1・2	大　迫　正　文	
	秋	健康スポーツ学演習ⅥB	人体構造論演習：応用	演　習	2	GEA604	1・2	大　迫　正　文	
	—	健康スポーツ学演習ⅦA	コンディショニング論演習	演　習	2	AHS605	1・2		本年度休講(隔年開講)
	—	健康スポーツ学演習ⅦB	コンディショニング論演習	演　習	2	AHS606	1・2		本年度休講(隔年開講)
	春	健康スポーツ学演習ⅧA	アダプティッドスポーツ指導論演習	演　習	2	SPS601	1・2	金　子　元　彦	隔年開講(2022年度休講)
	秋	健康スポーツ学演習ⅧB	アダプティッドスポーツ指導論演習	演　習	2	SPS602	1・2	金　子　元　彦	隔年開講(2022年度休講)
	春	健康スポーツ学総合演習ⅠA	健康スポーツ学Collaboration	演　習	2	AHS607	1・2	専任教員全員	
	秋	健康スポーツ学総合演習ⅠB	健康スポーツ学Collaboration	演　習	2	AHS608	1・2	神野、平野、金子	
	春	健康スポーツ学総合演習ⅡA	健康・運動・食のCollaboration	演　習	2	AHS609	1・2	専任教員全員	
	秋	健康スポーツ学総合演習ⅡB	健康・運動・食のCollaboration	演　習	2	AHS610	1・2	大迫、古川、齊藤、神野、岩本	
	—	国際健康スポーツ学研究ⅠA	アジアの健康スポーツ学研究	演　習	2	SPS603	1・2		本年度休講(隔年開講)
	—	国際健康スポーツ学研究ⅠB	アジアの健康スポーツ学研究	演　習	2	SPS604	1・2		本年度休講(隔年開講)
	秋	国際健康スポーツ学研究Ⅱ	欧米の健康スポーツ学研究	演　習	2	SPS605	1・2	木内　明、岩本紗由美	
	春	国際健康スポーツ学研究ⅢA	英語論文読解・英文論文作成法	演　習	2	FLE601	1・2	淺　間　正　通	
	秋	国際健康スポーツ学研究ⅢB	英語論文読解・英文論文作成法	演　習	2	FLE602	1・2	淺　間　正　通	

研究指導

区分	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	担当教員	備　考
研究指導科目	春・秋	健康スポーツ学研究指導ⅠA		演　習	2	REG601	1	大迫、古川、神野、齊藤、淺間、岩本、金子、平野、木内、内山、大木、細谷	1セメスタ在籍者
	春・秋	健康スポーツ学研究指導ⅠB		演　習	2	REG602	1		2セメスタ在籍者
	春・秋	健康スポーツ学研究指導ⅡA		演　習	2	REG603	2		3セメスタ在籍者
	春・秋	健康スポーツ学研究指導ⅡB		演　習	2	REG604	2		4セメスタ在籍者

注：春・秋は、春または秋の意で、在籍セメスタの学期を指す。

修了に必要な単位等

1．修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
2．主指導教授の「研究指導ⅠA～ⅡB」を、毎セメスタ1科目ずつ順を追って履修・単位修得すること。
3．〔2019年度以前入学生適用〕
共通科目「ライフデザイン学基礎特論」を履修・単位修得すること。

履修方法

1．履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2．指導教授は、主指導教授１名、副指導教授１名（特に主指導教授から指示があった場合は、２名）とし、主指導教授は、「健康スポーツ学研究指導ⅠＡ～ⅡＢ」を担当する教員の中から選ぶこと。
3．同一科目を２回以上履修・単位修得することはできない。主指導教授の科目であっても１回のみ履修・単位修得できるものとする。ただし、原級生および長期履修学生は、延長したセメスタ（５セメスタ以上）において、主指導教授の「健康スポーツ学研究指導ⅡＢ」をその都度履修すること。なお、この場合であっても、同科目において修了要件に充当するのは２単位のみとする。
4．本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第８条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は１回目のみ修了要件として扱い、２回目以降の履修によって修得した成績および単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の２に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。
5．本専攻においては、特定の課題についての研究成果報告書の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。この「特定課題研究論文」の選択は、原則として入学時にのみ可能である。これを選択する場合は、予め窓口に

申し出ること。

※「特定課題研究論文」について

研究分野によっては、計画をもって「特定課題研究論文」とすることができる。

予め指導教授と相談のうえ窓口に申し出ること。

6．海外社会調査演習Ⅰ・Ⅱについて

・本科目は、生活支援学専攻と合同開講する。諸外国に実際に赴き、当該社会における健康・スポーツへの取組や生活支援の現場について、フィールドワークや調査、実習等を行う。フィールドワーク等の成果は、院生各自の課題設定に沿ってレポートにまとめ、報告する。成績評価にあたっては、このレポートが一定の水準を満たしたとき、事前事後学習と報告書作成時間を含め全体で90時間程度であることを前提に、担当教員は２単位の演習科目を履修したものと認定し、成績を評価する。

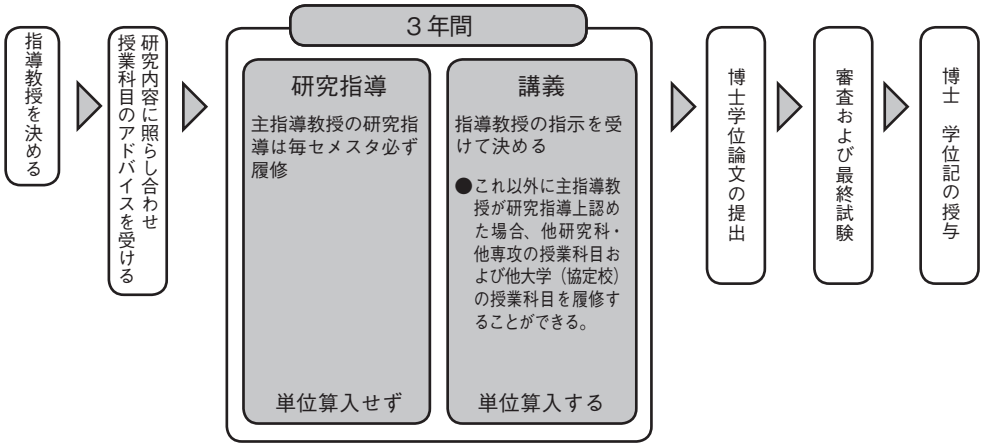
・本科目は、原則、休暇中に現地にて実践した成果を次学期に評価し単位認定するものとし、在学期間中、ⅠとⅡそれぞれ１回ずつ履修・単位修得することができる。

・ⅠとⅡはそれぞれ個別に履修することが可能であるが、教育効果上、ⅠとⅡを順に履修することを推奨する。ただし、２科目を同時に履修することはできない。

・本科目は、ToyoNet-G による履修登録はできないので、主指導教授と相談の上、各学期の履修登録期間中に、赤羽台事務課窓口（WELLB HUB-2　１階）で配布する「海外社会調査演習履修届出用紙」に記入して提出すること。

ヒューマンライフ学専攻

後期課程　履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。
※本専攻所属学生は、2021年４月より赤羽台キャンパス（WELLB HUB-2）で修学します。

ヒューマンライフ学専攻

博士後期課程

区分	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	担当教員	備考
共通科目	秋	英語プレゼンテーション演習		演習	2	SEM701	淺間正通	
生活支援学分野	春	生活支援学研究ⅠA	障害者福祉論	講義	2	SWS701	是枝喜代治	
	秋	生活支援学研究ⅠB	障害者福祉論	講義	2	SWS702	是枝喜代治	
	春	生活支援学研究ⅡA	精神保健論	講義	2	SWS703	吉田光爾	
	秋	生活支援学研究ⅡB	精神保健論	講義	2	SWS704	吉田光爾	
	春	生活支援学研究ⅢA	介護福祉論	講義	2	SWS705	渡辺裕美	
	秋	生活支援学研究ⅢB	介護福祉論	講義	2	SWS706	渡辺裕美	
	春	生活支援学研究ⅣA	医療福祉論	講義	2	SWS707	吉浦輪	
	秋	生活支援学研究ⅣB	医療福祉論	講義	2	SWS708	吉浦輪	
	春	生活支援学研究ⅤA	対人支援原理論	講義	2	SWS709	稲沢公一	
	秋	生活支援学研究ⅤB	対人支援原理論	講義	2	SWS710	稲沢公一	
	春	生活支援学研究ⅥA	多文化児童論	講義	2	CHS701	内田千春	
	秋	生活支援学研究ⅥB	多文化児童論	講義	2	CHS702	内田千春	
	—	生活支援学研究ⅦA		講義	2	CHS703		本年度休講
	—	生活支援学研究ⅦB		講義	2	CHS704		本年度休講
	春	生活支援学研究ⅧA	子どもの権利擁護システム論	講義	2	CHS705	荒牧重人	
	秋	生活支援学研究ⅧB	子どもの権利擁護システム論	講義	2	CHS706	荒牧重人	
	春	生活支援学研究ⅨA	多文化家族ソーシャルワーク論	講義	2	CHS707	南野奈津子	
	秋	生活支援学研究ⅨB	多文化家族ソーシャルワーク論	講義	2	CHS708	南野奈津子	
	春	生活支援学研究ⅩA	生活支援論	講義	2	SWS711	的場智子	
	秋	生活支援学研究ⅩB	生活支援論	講義	2	SWS712	的場智子	
健康スポーツ学分野	春	健康スポーツ学研究ⅠA	人体構造論	講義	2	GEA701	大迫正文	
	秋	健康スポーツ学研究ⅠB	人体構造論	講義	2	GEA702	大迫正文	
	春	健康スポーツ学研究ⅡA	健康増進論	講義	2	AHS701	神野宏司	
	秋	健康スポーツ学研究ⅡB	健康増進論	講義	2	AHS702	神野宏司	
	春	健康スポーツ学研究ⅢA	ヘルスプロモーション論	講義	2	AHS703	齊藤恭平	
	秋	健康スポーツ学研究ⅢB	ヘルスプロモーション論	講義	2	AHS704	齊藤恭平	
	春	健康スポーツ学研究ⅣA	コンディショニング論	講義	2	AHS705	岩本紗由美	
	秋	健康スポーツ学研究ⅣB	コンディショニング論	講義	2	AHS706	岩本紗由美	
	—	健康スポーツ学研究ⅤA	デジタル・ＡＩ教育社会論	講義	2	LIH701		本年度休講
	—	健康スポーツ学研究ⅤB	デジタル・ＡＩ教育社会論	講義	2	LIH702		本年度休講

研究指導

区分	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	担当教員	備考
研究指導科目	春	ヒューマンライフ学研究指導		演習		REG701	吉浦、是枝、稲沢、吉田、渡辺、内田、南野、大迫、齊藤、神野、岩本	
	秋	ヒューマンライフ学研究指導		演習		REG702		

注：春・秋は、春または秋の意で、在籍セメスタの学期を指す。

修了に必要な単位等

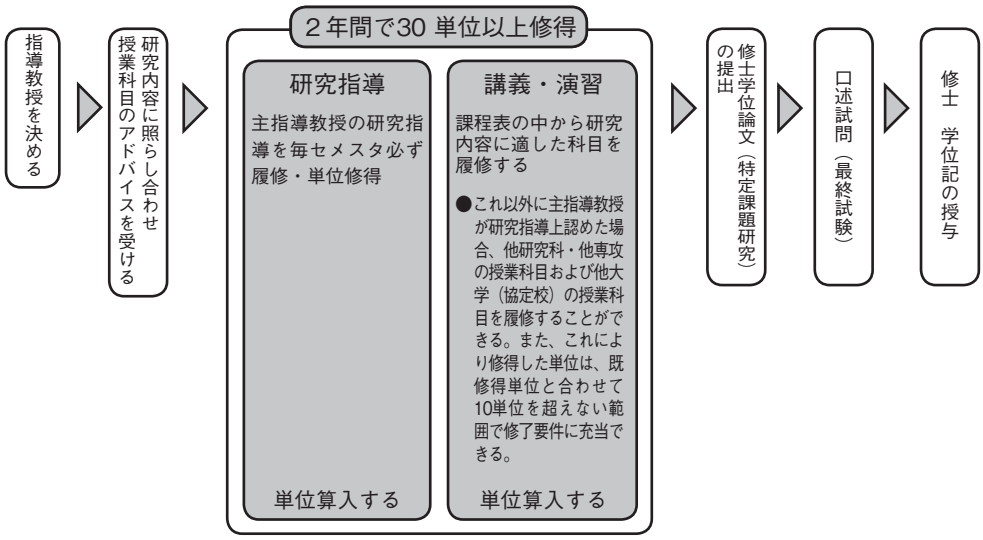
1．主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
2．主指導教授の講義科目は、同一科目であっても各年度毎セメスタ履修すること。

履修方法

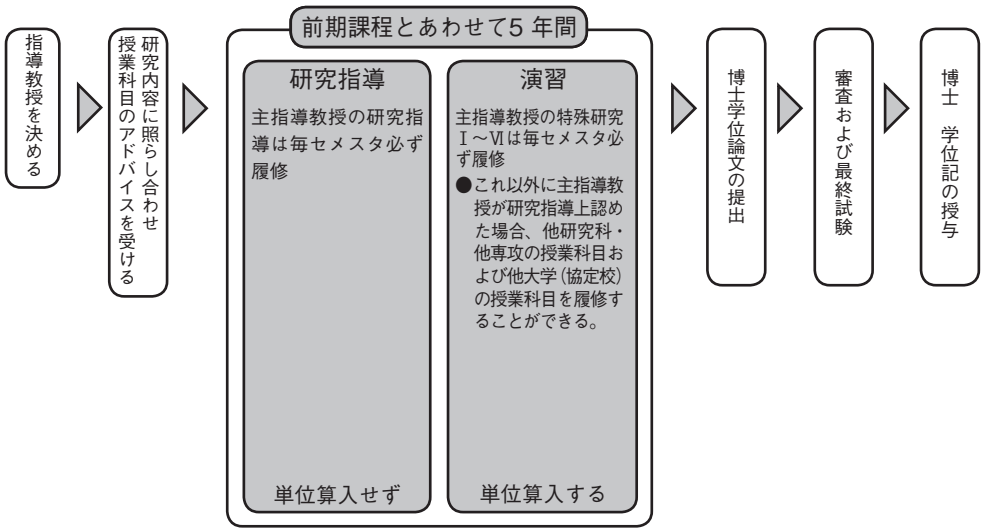
1．履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2．指導教授は、主指導教授１名、副指導教授１名（特に主指導教授から指示があった場合は、２名）とし、主指導教授および副指導教授は、「ヒューマンライフ学研究指導」を担当する教員の中から選ぶこと。
3．主指導教授以外の講義は、主指導教授の指示を受けて決定すること。
4．本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

人間環境デザイン専攻

前期課程　履修の流れ



後期課程　履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。
※本専攻所属学生は、2021年４月より赤羽台キャンパス（WELLB HUB-2）で修学します。

人間環境デザイン専攻

博士前期課程

選択・必修の別	2021年度開講学期	授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	開講年度 2021	開講年度 2022	担当教員	備考
必修	秋	人間環境デザイン基礎特論	講義	2	DES601	1・2	○	○	内田、仲、水村、池田、大沼、櫻井、勝平、菅原、柏樹、嶺、齋藤、名取、冨安、松本(和)	
4単位選択必修	春	建築計画特別演習A	演習	2	TPA601	1・2	○		冨安亮輔、齋藤博	
	春	建築計画特別演習B	演習	2	TPA602	1・2	○		仲綾子、松本康弘	
	—	建築設計特別演習A	演習	2	BSM601	1・2		○	内田祥士、山本成一郎	本年度休講(隔年開講)
	—	建築設計特別演習B	演習	2	BSM602	1・2		○	櫻井義夫、鷹箸譲	本年度休講(隔年開講)
	—	建築構法特別演習	演習	2	BSM603	1・2		○		本年度休講(隔年開講)
	春	生活支援デザイン特別演習A	演習	2	RSW601	1・2	○		勝平純司、菅原麻衣子	
	春	生活支援デザイン特別演習B	演習	2	RSW602	1・2	○		高橋良至、嶺也守寛	
	春	製品デザイン特別演習A	演習	2	DES601	1・2	○	○	大沼敦、松本和也、柏樹良、池田千登勢	
	春	製品デザイン特別演習B	演習	2	DES602	1・2	○	○		
選択	秋	地域計画特論	講義	2	TPA601	1・2	○		齋藤博	
	—	建築計画特論	講義	2	TPA602	1・2		○	冨安亮輔	本年度休講(隔年開講)
	—	建築設計特論	講義	2	BSM601	1・2		○	内田祥士	本年度休講(隔年開講)
	春	建築意匠特論	講義	2	AHD601	1・2	○		櫻井義夫	
	春	建築構法特論	講義	2	BSM602	1・2	○		名取発	
	秋	生活支援工学特論	講義	2	RSW601	1・2	○		嶺也守寛	
	春	生活支援デザイン特論	講義	2	RSW602	1・2	○		勝平純司	
	—	メカトロニクス・デザイン特論	講義	2	RSW603	1・2		○	高橋良至	本年度休講(隔年開講)
	秋	住居計画特論	講義	2	CLD601	1・2	○		水村容子	
	春	製品デザイン特論	講義	2	DES602	1・2	○		大沼敦	
	—	アクセシブルデザイン特論	講義	2	DES603	1・2		○	池田千登勢	本年度休講(隔年開講)
	—	ヒューマンインターフェイス特論	講義	2	HII601	1・2		○	松本和也	本年度休講(隔年開講)
	—	インテリアデザイン特論	講義	2	CLD602	1・2		○	柏樹良	本年度休講(隔年開講)
	秋	生活空間計画特論	講義	2	TPA603	1・2	○		菅原麻衣子	
	秋	医療福祉建築特論	講義	2	AEN601	1・2	○		仲綾子	
	春	建築環境特論(一級建築士資格対応)	講義	2	AEN602	1・2	○		開原典子	
	—	コミュニケーション支援技術特論	講義	2	RSW604	1・2		○	巖淵守	本年度休講(隔年開講)
	秋	認知心理学特論	講義	2	CGS601	1・2	○		小林吉之	
	春	国際・産学協同特別実習ⅠA	実習	2	CIV601	1・2	○	○	本専攻全専任教員	集中講義
	秋	国際・産学協同特別実習ⅠB	実習	2	CIV602	1・2	○	○	水村、大沼、内田、櫻井、勝平、菅原、名取、池田、嶺、仲、柏樹、冨安、齋藤、松本(和)	集中講義
	春	国際・産学協同特別実習Ⅱ	実習	2	CIV603	1・2	○	○	本専攻全専任教員	集中講義
必修	春	人間環境デザイン学研究指導ⅠA	演習	2	REG601	1	○	○	水村、大沼、内田、櫻井、勝平、菅原、名取、池田、嶺、仲、柏樹、冨安、齋藤	1セメスタ在籍者
	秋	人間環境デザイン学研究指導ⅠB	演習	2	REG602	1	○	○		2セメスタ在籍者
	春	人間環境デザイン学研究指導ⅡA	演習	2	REG603	2	○	○		3セメスタ在籍者
	秋	人間環境デザイン学研究指導ⅡB	演習	2	REG604	2	○	○		4セメスタ在籍者

注：春・秋は、春または秋の意で、在籍セメスタの学期を指す。

修了に必要な単位等

１．修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
２．主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修・単位修得すること。
３．共通科目「人間環境デザイン基礎特論」を履修・単位修得すること。
４．「特別演習」から2科目を選択して履修し、4単位修得すること。

履修方法

１．履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
２．指導教授は、主指導教授１名、副指導教授１名（特に主指導教授から指示があった場合は、２名）とし、主指導教授は、「人間環境デザイン学研究指導ＩＡ～ⅡＢ」を担当する教員の中から選ぶこと。
３．同一科目を２回以上履修・単位修得することはできない。ただし、原級生および長期履修学生は、延長したセメスタ（５セメスタ以上）において、主指導教授の「人間環境デザイン学研究指導ⅡＢ」をその都度履修すること。なお、この場合であっても、同科目において修了要件の単位に充当するのは２単位のみとする。
４．本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第８条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は１回目のみ修了要件として扱い、２回目以降の履修によって修得した成績および単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の２に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。
５．「修士論文」または「特定課題研究」の作成にあたっては、主指導教授の指導を受けなければならない。
６．建築士試験の大学院における実務経験を認定してもらうためには、特定課題研究として「修士設計」の提出を求めることがあるので、指導教授の指示を受けること。

博士後期課程

選択・必修の別	2021年度開講学期	授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	開講年度 2021	開講年度 2022	担当教員	備考
必修	春	人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ	演習	2	REG701	1	○	○	水村容子、大沼敦、内田祥士、櫻井義夫、勝平純司、菅原麻衣子、仲綾子、池田千登勢、嶺也守寛	１セメスタ在籍者
	秋	人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ	演習	2	REG702	1	○	○		２セメスタ在籍者
	—	人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ	演習	2	REG703	2		○		本年度休講
	—	人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ	演習	2	REG704	2		○		本年度休講
	—	人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ	演習	2	REG705	3				本年度休講
	—	人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ	演習	2	REG706	3				本年度休講
必修	春	人間環境デザイン学研究指導	演習		REG707～REG712	1～3	○	○	水村容子、勝平純司、内田祥士、菅原麻衣子、嶺也守寛	各セメスタごとに履修
	秋	人間環境デザイン学研究指導	演習		REG707～REG712	1～3	○	○		各セメスタごとに履修

注：春・秋は、春または秋の意で、在籍セメスタの学期を指す。

修了に必要な単位等

１．主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
２．「人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」は、主指導教授の科目を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

１．履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
２．指導教授は、主指導教授１名、副指導教授１名（特に主指導教授から指示があった場合は、２名）とし、主指導教授および副指導教授は、「人間環境デザイン学研究指導」を担当する教員の中から選ぶこと。
３．本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

■一級建築士の実務年数認定

建築・環境デザインコースの大学院博士前期課程の学生は、インターンシップ関連科目の単位取得に応じて、一級建築士の実務経験年数認定（2年または1年）を希望することが出来る。希望する場合には、入学または進級時に、その意志を指導教員に申し出、具体的な履修説明・指導を受けること。

なお、インターンシップ科目及びインターンシップ関連科目の詳細については、指導教員の指導を受け、シラバスで確認すること。

2018年12月14日に公布された「建築士法の一部を改正する法律」により、一級建築士試験の受験の要件となっていた実務経験が、建築士免許の登録要件に改められることとなる。

この改正によって変更となる内容がある場合、別途掲示等で周知するので確認すること。

□国際・産学協同特別実習ＩＡ・ＩＢ・Ⅱについて

本実習は、人間環境デザイン専攻のインターンシップ科目である。ただし、建築・環境デザインコースの院生にとっては、一級建築士受験に際して、大学院在学期間の内一年間を実務経験年数として換算するためにも用いることが出来る科目として配置されている。本実習を実務経験年数として換算するために用いる場合には、あらかじめ、その旨指導教員に申し出て、必要な手続をとる必要がある。その上で、指導教員が適切と判断した一級建築士事務所に出向き、設計図書の作成等の建築設計補助業務を行う。したがって、直接の指導は出向先の有資格者（一級建築士）から受ける事になる。事前ガイダンスと事後報告計10時間とインターンシップ80時間の合計90時間で２単位とする。なお、建築設計補助業務とは下記の４つとする。

・実際の設計活動における設計補助作業
・実際の確認申請における申請業務の補助
・実際の工事監理における監理業務の補助
・設計競技或いはプロポーザル等の設計補助作業

本科目を受講した院生は単位の修得に際して、日報を提出し業務内容を指導教員に報告すること。

また、道具・機器デザイン及び製品・情報デザインの各コースにおいては、通常のインターンシップ科目として運用されるが、合計90時間で２単位であること、単位の修得に際して、日報を提出し業務内容を指導教員に報告する点は、建築・環境デザインコースの場合と同様である。

※ この科目は ToyoNet-G による履修登録はできないので、主指導教授と相談の上、実習が確定次第赤羽台事務課窓口（WELLB HUB-2 １階）に申し出て、必要書類を提出すること。

□人間環境デザイン学研究指導ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢについて

一級建築士の実務年数認定について、実務経験年数2年を希望する学生は、インターンシップ科目を計14単位、インターンシップ関連科目を計16単位、合計30単位を取得することが必要となる。本専攻では、インターンシップ科目は「国際・産学協同特別実習ＩＡ・ＩＢ・Ⅱ」（計6単位）に加え、特定の指導教員による「人間環境デザイン学研究指導ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ」（計8単位）を学内で実施するインターンシップ科目とすることで、必要単位数を満たすことができる。インターンシップ関連科目は、演習・実習・実験科目で８単位、講義科目で８単位を満たす必要がある。科目の詳細は、指導教員に確認すること。

なお、研究指導科目をインターンシップ科目とする際は、インターンシップ成果を含む特定課題研究を提出しなければならない。詳細は、指導教員に確認すること。